

各数値目標の令和6年度実績に基づく評価と取り組み状況の解説

Ⅲ 役割・機能の最適化と連携の強化（経営強化プラン5ページ～抜粋）

4 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

(1) 医療機能に係るもの

	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
救急車受入台数(台)	4,026	4,190	4,100	4,101	1	100.0	A	4,100	4,200	4,200
地域救急貢献率(%)	27.0	27.1	27.3	26.3	-1.0	96.3	B	27.3	27.5	27.5
救急患者入院率(%)	39.9	38.2	41.0	38.4	-2.6	93.7	B	41.0	42.0	42.0

【救急車受入台数】

1日平均11.2台の救急車を受け入れました。群馬県内において、救命救急センターを設置する病院に次ぐ多くの台数を受け入れています。

【地域救急貢献率】

太田・館林二次医療圏の医療機関に救急搬送された患者のうち当院が受け入れた割合です。特に邑楽館林地区の医療機関への救急搬送においては約8割を当院が受け入れています。救急搬送が年々増加していますが、一定割合を維持しています。

【救急患者入院率】

当院の救急センターを受診した患者のうち入院となった患者の割合です。目標値には至らなかったものの、前年度より上昇しており救急患者7,326人のうち入院となった方は2,814人（前年度2,797人）でした。重症救急患者の受け入れに積極的に取り組んでいます。

	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
手術件数(件)	1,585	1,578	1,650	1,595	-55	96.7	B	1,650	1,700	1,700

【手術件数】

目標値には至らなかったものの前年度より17件増加しています。急性期病院として幅広い診療領域の手術ができるよう取り組んでいます。

(2) 医療の質に係るもの

在宅復帰率(%)	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
急性期病棟	96	96	97	96	-1	99.0	B	97	97	97
地域包括ケア病棟	82	82	85	84	-1	98.8	B	85	85	85
回復期リハビリ病棟	90	88	90	81	-9	90.0	B	90	90	90

【在宅復帰率】

在宅復帰率とは、退院患者のうち、自宅や居宅系介護施設等に退院した患者の割合になります。自宅に直接退院することだけでなく、自宅に帰ることが最終目標となっている医療機関、介護施設への退院も在宅復帰に含まれています。

3つの病棟種別ごとに評価しています。いずれの病棟も目標値を下回りましたが、各病棟が機能に沿った適切な治療や退院支援を行い、患者に合った退院ができるよう取り組んでいます。

〔各病棟の機能〕

- 急性期病棟：症状の改善を目指し積極的に検査や処置、手術等の治療を行う病棟
- 地域包括ケア病棟：急性期治療後の安定した在宅復帰に向けてリハビリや退院サポートを行う病棟
- 回復期リハ病棟：急性期治療後に特にリハビリが必要な疾患の患者に積極的にリハビリを行う病棟

患者満足度 (%)	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
入院	78.2	82.3	85.0	75.4	-9.6	88.7	C	85.0	85.0	85.0
外来	-	-	85.0	-	-	-	-	85.0	85.0	85.0

【患者満足度】

入院・外来それぞれの患者を対象に、診療面や施設面などについて、アンケートを行った結果になります。5段階評価の5「満足」と4「ほぼ満足」を対象として、その割合を記した結果になります。外来は、感染防止対策等を勧奨し実施を中止しています。

感染症流行後から感染防止の観点から入院生活に不自由を強いる場面も多く、満足度が上がらない状況が続いていますが、療養環境に少しでもご満足いただけるよう取り組んでいます。

(3) 連携の強化等に係るもの

	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
紹介率 (%)	66.6	70.7	72.0	72.4	0.4	100.6	A	75.0	78.0	80.0
逆紹介率 (%)	74.0	80.2	80.0	83.2	3.2	104.0	A	85.0	87.0	90.0

【紹介率】

当院を初診で受診された方のうち、他の医療機関等から紹介されて来院された方の割合になります。専門治療を行える診療領域の拡充に取り組み、着実に増加しています。

【逆紹介率】

初診患者数に対して何割の患者を他の医療機関等に紹介（逆紹介）したかの割合になります。地域の医療機関等と緊密に連携し、切れ目のない医療提供に取り組んでいます。

(4) その他

	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
臨床研修医数 (人)	12	11	11	11	0	100.0	A	12	12	12

【臨床研修医数】

若手医師の育成に取り組むため、初期臨床研修（2年）として毎年定員6人の採用に取り組んでいます。令和6年度は定員6人採用（フルマッチ）となり11人となっています。

Ⅷ 経営の効率化（経営強化プラン15ページ～抜粋）

1 経営指標に係る数値目標

(1) 収支改善に係るもの

	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
経常収支比率(%)	105.8	98.8	99.2	92.0	-7.2	92.7	B	98.3	99.8	100.5
修正医業収支比率(%)	93.1	89.0	95.6	86.7	-8.9	90.7	B	94.8	96.1	96.9

【経常収支比率・修正医業収支比率】

経常収支比率と修正医業収支比率により、経営状況が表されています。修正医業収支比率は医業収益から構成団体からの負担金を除いた医業収支比率となります。

医業収益は着実に増加できているものの、人件費、物価、光熱費等の急激な高騰により、収益の伸び以上に費用が増加してしまい厳しい収支状況になっています。

収支の詳細は、経営強化プラン23ページ「3 各年度の収支計画」をご参照ください。

(2) 収入の確保に係るもの

1日当たり患者数（人）	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
入院	266	269	272	264	-8	97.2	B	272	274	274
外来	433	441	450	447	-3	99.3	B	450	450	450

【1日当たり患者数】

入院は、病棟により増減がありました。各病棟の状況を下記、病床利用率で解説しています。外来は、目標値をわずかに下回ったものの着実に増加できています。

病床利用率（%）	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
急性期病棟	78	83	84	86	2	102.4	A	84	85	85
地域包括ケア病棟	88	93	90	96	6	106.7	A	90	90	90
回復期リハビリ病棟	92	92	94	84	-10	89.4	C	94	94	94

【病床利用率】

収益の柱となる入院収益の増減に大きく影響する指標の1つに病床利用率があります。

急性期病棟、地域包括ケア病棟は、積極的な受け入れ、患者の状態、治療内容に応じた適切なベッドコントロールにより目標を上回る高い利用率となりました。回復期リハビリ病棟は、急性期治療後のリハビリを要する患者を受け入れる病棟であり、対象となる患者が一時的に減少となった時期があったため目標を大きく下回る数値となりました。急性期病棟や他の急性期病院との連携を密にし、安定的な病床稼働となるよう取り組んでいきます。

	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
DPC入院期間Ⅱ以内率（%）	63	62	65	63	-2	96.9	B	67	68	70

【DPC 入院期間Ⅱ以内率】

急性期病棟の医療費計算方式である DPC 包括払い方式では、全国の平均在院日数である入院期間Ⅱまでに退院できれば収益が最大化されやすい仕組みとなっています。期間Ⅱ以内率が高いほど患者は標準的な入院期間で退院できており、病院は病床を効率的に運用し収益を獲得できていることとなります。

標準的治療を心掛け、積極的な退院支援に取り組むことにより、目標値を下回ったものの前年度からは増加することができています。

診療単価（円）	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
急性期病棟	62,521	63,527	63,500	65,142	1,642	102.6	A	63,500	64,000	64,000
地域包括ケア病棟	37,215	37,406	37,500	38,050	550	101.5	A	37,500	37,500	37,500
回復期リハビリ病棟	38,581	38,127	38,600	40,012	1,412	103.7	A	38,600	38,600	38,600
外来	22,371	22,396	22,600	22,973	373	101.7	A	22,600	22,600	22,600

【診療単価】

入院の各病棟と、外来それぞれ患者1人1日あたりの収益になります。

入院は、急性期病棟では専門治療に積極的に取り組み、前項目にある DPC 入院期間Ⅱを目安とした退院支援により単価上昇に繋がりました。また、回復期リハビリ病棟では病床利用率は減少となったものの、一人あたりに提供できるリハビリ訓練量は増加したため単価上昇に繋がりました。

外来は、高額な抗がん剤や血液製剤の使用が増加したことにより年々上昇しており、今後も上昇が継続していくものと見込まれます。

(3) 経費削減に係るもの

対修正医業収益比率 (%)	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
職員給与費	58.5	59.9	55.9	61.1	5.2	91.5	B	56.0	55.2	53.7
委託費	7.9	8.1	7.3	8.6	1.3	84.5	C	7.1	7.2	7.0
材料費	26.4	28.2	26.6	29.3	2.8	90.6	B	27.1	26.6	25.8

【対修正医業収益比率】

費用の中でも金額の大きい3つの費用を把握するための指標です。下がるほど利益が生まれやすくなります。

職員給与費との比率では、医療従事者の賃上げが求められており、当院もベースアップの改定を行っています。そのため、医業収益が増加基調であるものの、職員給与費がそれ以上の増加となり比率は上昇してしまっています。

委託費との比率は、委託費の大部分は業務を委託する人件費のため、委託内容の見直し等を実施しているものの、こちらも賃上げの影響により年々増加の一途となっています。

材料費との比率では、高額な抗がん剤が続々と登場し、当院でも多く使用しています。また、患者に医療費として請求できない材料も物価高騰の影響で大きく増加しています。

いずれの指標も目標値には及びませんでした。職員の効率的な働き方、人員配置を進め、委託や材料購入については今後も取引業者との価格交渉を重ね、これ以上の大きな上昇になることのないよう努めていきます。

(4) 経営の安定性に係るもの

	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (目標)	6年度 (実績)	比較	達成率	評価	7年度 (目標)	8年度 (目標)	9年度 (目標)
常勤医師数 (人)	44	46	50	46	-4	92.0	B	51	53	55
企業債残高 (百万円)	6,796	6,817	6,553	6,429	-124	101.9	A	7,552	7,112	6,785

【常勤医師数】

毎年新たに医師を採用し診療領域の拡充を図っていますが、一定数の退職もあり横ばいの推移となっています。今後も新規医師の採用のみならず、医師の業務負担軽減等働きやすい職場づくりを図り、医師定着による安定的な増加に取り組んでいきます。

【企業債残高】

企業債残高は、建設改良や医療機器整備に充てた借入金の残高となります。

購入に当たっての厳正な価格交渉と計画的に分散した設備投資に取り組み目標通りの推移になっております。今後、病院西地区再整備等により残高の大きな増加を見込んでいますが、着実な縮小に努めていきます。

《評価の方法》

- A評価 達成率100%以上
- B評価 達成率90%以上100%未満
- C評価 達成率90%未満